

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

大分県玖珠町

○学校名

玖珠町立森中学校

○学校のURL

<http://tyu.oita-ed.jp/kusu/mori/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各2学級、【特別支援学級】2学級、【合計】8学級

○児童生徒数

【全生徒数】129名（平成25年12月3日現在）

（内訳：1年生43人、2年生46人、3年生40人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

『一人一人の良さを生かし、心豊かで、たくましく、仲間・地域とともに生きる生徒の育成』～ 魅力ある学校・行きたくなる学校 ～

【人権教育に関する目標】

- 一人一人の個性を尊重し、互いを認め合う豊かな感性と確かな人権感覚を養う
- 人権尊重の立場に立った教育活動を通して、差別の不合理性に気づかせ、差別を見抜き、差別に立ち向かう意欲と行動力を持った生徒の育成に努める

○人権教育にかかる取組の全体概要

①研究主題

思いを伝え合える、表現力豊かな森中っ子の育成

～体験的参加型学習を取り入れた、学び合いの場を通して～

②研究仮説

体験的参加型学習を取り入れた共同的な学び合いの場を設定し、互いの思いを出し合える活動を積み重ねることによって効力感（自尊感情）が高まり、互いの思いが伝え合える表現力豊かな生徒が育つであろう。

③取り組みの内容

1. 授業における生徒の学び合いの保障と、自ら学ぶ姿勢の育成

- 学習意欲の喚起、連帯感、成就感をもたらす共同的な授業の創造
- やる気を出させるための授業における集団づくり
- 個人的な学びから、共同的な学びへと転換するための授業展開、発問、教材教具、授業形態の工夫（体験的参加型学習の手法を取り入れた授業づくり）
- 生徒に充実感・成就感を保障するための授業評価、基礎基本の定着にむけた取り組み
- 共同的な学びをとおした、思いを伝え合う場の設定

2. 人権の視点に立った学級集団づくり・学校集団づくり

- 共感的人間関係を構築するための授業づくり
- 朝の会、帰りの会を基盤に据えた学級づくり
- 上級生と下級生がお互いを高め合う学校集団づくり
（創造的な生徒会行事や専門部活動、「本物の格好よさ」の追求）
- 感性を育てる講話・体験
- 体験的参加型学習の手法を取り入れた集団づくり

3. 保護者・地域と一体となった取り組み

- コミュニティスクールを推進し、地域・保護者との連携を一層深めていく。
- 基本的な生活習慣の確立に向けてのアプローチ
（学級懇談会の開催、子育てについての情報交流）
- オープンスクールの開催
- 地域から認められる森中学校へ
（生徒会専門部活動の取り組み、地域の人による出前授業）
（近隣高校生の指導による畑作業）



④取り組みの進め方 ～3つのグループに分かれ、研究を進めていく～

人権学習グループ

各学年「人権学習」をとおして、「人権に関する知的理解」「人権感覚」をどう身につけていくかを検証する。

教科授業グループ

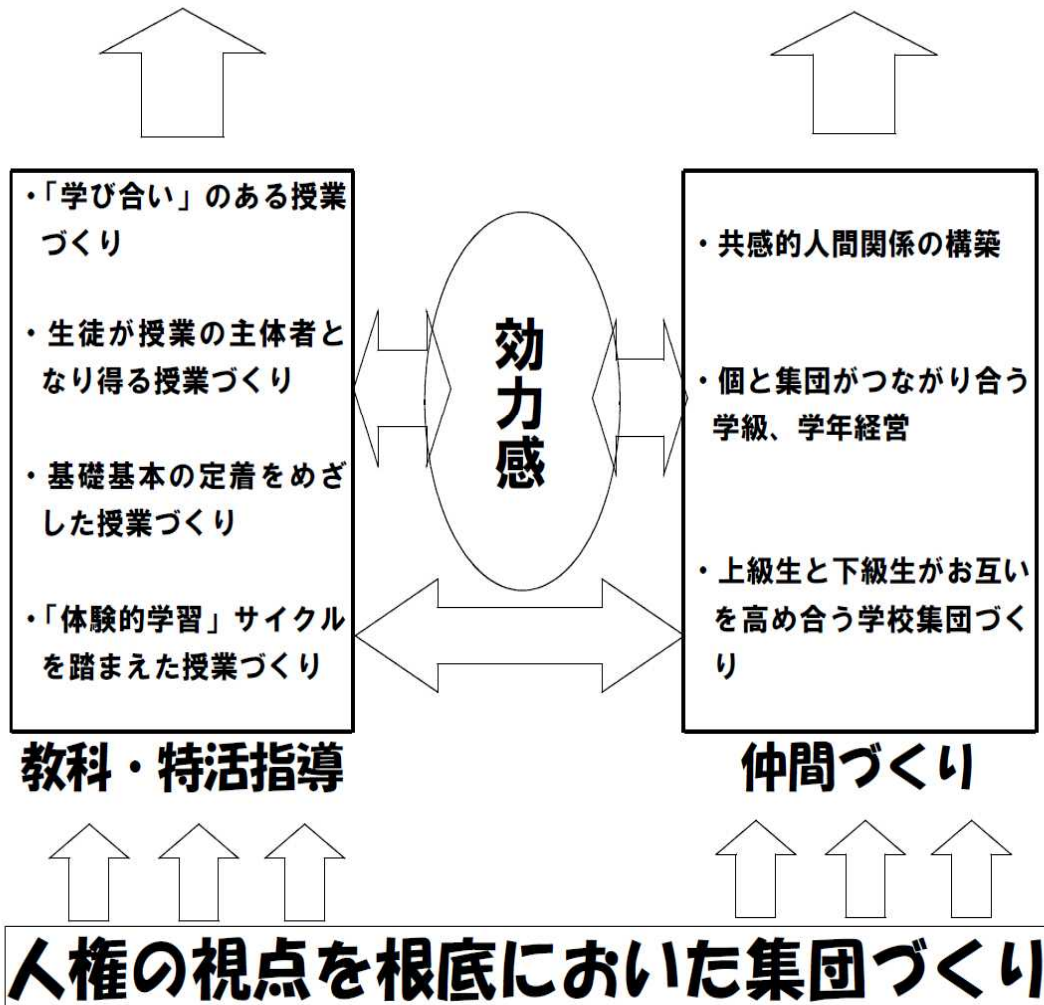
教科の授業をとおして、「学び合い」「生徒が主体となる授業」「基礎基本の定着」の3点について検証する。

仲間づくりグループ

日常の学級活動や行事をとおして、「共感的人間関係の構築」「個と集団をつなぐ取り組み」「集団づくり」の3点を検証する。

⑤研究構想図

思いを伝え合う森っ子集団



(数学授業での学び合いの風景)

3. 特色ある実践事例の内容

日常の学級活動や行事をとおした「共感的人間関係の構築」「個と集団をつなぐ取り組み」「集団づくり」の取組

【取組のねらい、目的】

各種学校行事（体育祭、合唱コンなど）やそのための学活を通して、共感的人間関係を構築するとともに、個と集団をつなぎ、学級・学校集団づくりを行う。

【取組の内容】

①学年・学級づくり

1年生・・・「一人一人が学級で所属感や存在感を持つことができる」「自分の可能性を信じて、プラス思考で考えることができる」生徒の姿を目指して、仲間づくりを行っている。

2年生・・・入学時より「おいてけぼりをつくらない、おいてけぼりにならない」を学年スローガンとし、仲間を見捨てない、自分も見捨てない（差別を許さない、差別に負けない）ことの大切さを、日常のあらゆる場面をつかって仲間づくりをしてきた。更に今年度は、「認め合う、そして有言実行」を学年目標に掲げ、よりよい集団を目指して実践に取り組んでいる。

3年生・・・学年目標を「リーダーとしての自覚を持ち、仲間とともに進路を切り拓こう～みんなで学んで、悩んで、燃えて、笑おう～」と掲げ、最高学年としての誇りと自覚を持ち、良きリーダーとしてどうあるべきかを常に意識し行動する集団をめざして取り組んでいる。

②主体的に取り組む生徒会活動

〈生徒会執行部の活動〉

生徒会執行部の役員選挙では、毎回定数以上の立候補がある。立候補者の演説では、いかに森中生徒会を活発に運営していきたいか、行事に関しては伝統を引き継ぎながらも、今まで以上のものを創っていきたいかを熱く語る姿が見られる。本年度の前期生徒会選挙も同様であった。前期生徒会スローガンは「日々前進～みんなとつながり輝こう～」。これまでの森中学校生徒会の伝統を受け継ぎ、更にレベルアップをしたいという思いがそこに込められている。また、全校生徒がつながり、支え合いながらみんなで輝いていきたい、失敗しても仲間でフォローし合いながら最高の生徒会をつくりたいという執行部の願いも込められている。意欲に燃えて生徒会執行部となったメンバーは、「あいさつ運動」「いじめゼロサミットの参加」「花いっぱい運動」「落書き消し」「意見箱の設置」「詩の掲示」など、様々な活動を企画し意欲的に運営してきた。

その中でも8月6日の平和集会で上演する「平和劇」の取り組みは、執行部が声かけをし3年生の半数以上が参加をするといった今までにない取り組みとなった。短い練習期間ではあったが、生徒会担当は、毎回練習が終わってから行うミーティングに時間をかけ、丁寧に子供たちの思いをつなげていった。その結果、舞台に立

つ者、スタッフとして舞台を支える者全員が「平和への思いを全校生徒に伝えたい」「戦争の語り継ぎを私たちが行わなければ」という思いを持ち、本番に臨むことができた。そして、その思いは、役を通して表現され、見るものに感動を与える平和劇となった。



生徒有志による平和劇

〈専門部活動〉

本校は、縦割りで専門部活動（生活部・図書広報部・健康安全部・環境美化部・学習文化部・地域交流人権部）を行っている。それぞれの専門部の長を生かして、自主的・自治的な活動が展開できている。例えば学習文化部では、定期テスト前に、家庭学習の充実をねらいとして「努力ノート2000ページ達成」運動に取り組んでいる。クラスのがんばりが可視化されることにより、学習意欲の向上につながっている。

また、各部の活動には全校生徒を募る「ボランティア活動」がたくさんある。（環境美化部…ごみ拾い、地域人権交流部…お年寄りのみなさんへの暑中見舞い・年賀状書きなど）専門部活動を通して、上級生から下級生へと受け継がれるものは大きい。



（地域の方への年賀状 地域・人権部）

③体育祭の取り組み

1学期末に生徒会執行部を母体とする実行委員会そして応援団を組織し、テーマ「心を一つにみんなで輝こう」のもと、取り組みを始めた。夏休み中に、3年生の応援団は主将・応援団長を中心に独自の演舞をつくり上げる。2学期に入って10日間の練習で、3年生が中心になって1・2年生に教え、指導する。競技においても同様に、3年生がリーダーとなり、1・2年生を指導しながらも温かく思いやりをもって接するその姿から、「自分たちもこのような3年生になりたい」という思いが1・2年生の中に生まれてきた。特に本年度は、各競技終了時に互いの団の健闘をたたえ合う場面があった。また最後のフォークダンスでは、リーダーの呼びか

けで全校が一つの輪になって踊った。

10日間の取り組みの期間は、「体育祭反省カード」を毎日記入させた。毎日の満足度と反省を記入するが、それに加えて、「本日輝いていた人」の欄があり、その日の活動の中で素晴らしいと思った人の名前とその理由を挙げるようになっている。クラスの仲間のがんばる姿、他学年の懸命な姿など、生徒の素直な感動が、その欄には記されている。特に「本日輝いていた人」は、各担任が学活や通信の中で紹介している。担任のみではなく、全教職員がカードに目を通し、生徒たちの思いや状況を把握している。カードに名前が挙がることや教職員の声かけが、生徒の効力感の高揚につながっている。



(学年を越えてお互いをたたえあうシーン 体育祭)

④合唱コンクールの取り組み

例年11月下旬に行われる合唱コンクールは、前期生徒会が計画する最後の大きな行事である。今年度はテーマを「歌でつなぐ128の心」と設定し、全校生徒の心をつなぐ合唱コンクールを創りあげようと意欲に燃えている。取組期間の1か月間は、学級リーダーが練習の指示を出し評価もしていた。その間計画されている4回の「リーダー会議」では、各学級のリーダーが集まり、自分たちの学級の合唱の進捗状況や悩みなどを交流し合う。入学して初めて取り組む1年生にとっては戸惑うことも多く、例年「どのように練習したらいいのか?」「リーダーの言うことを聞いてくれないが、どうしたらいいのか?」などの悩みが出される。そのときに上級生から、「壁に向かって歌うと、自分の声が聞けていいよ。」「いいところをまず評価して、その後、注意点を伝えるとやる気が続くよ。」など、自分たちの経験を踏まえて的確なアドバイスをおくる姿が見られる。教員が指導方法を教授するより上級生から学ぶ方が、生徒は納得する。また、リハーサルや本番だけでなく、それぞれの学級が、合唱練習に取り組む姿を交流する機会を設けている。リーダー会議で申出を行い、学年を問わず、他学級の練習を見学し合唱を披露し合う。

学級の一人一人が、よりよい合唱を創りあげるという目標に向かってつながり合う、そして、下級生が上級生の姿に学びながら森中の伝統を引き継ごうという気持ちを持つ。そして当日、そんな全校生徒の思いが結集した姿を、私たちは見ることができた。

【取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫】

～行事をより良いものにしていくための「学級活動授業実践」～

学級活動指導案

日 時 2013 年 11 月 18 日 (月)
対 象 3 年 1 組 20 名
指導者 井上 孝文

1 単元名 思いを伝え合い、互いに高まろうとする集団づくり ～合唱コンクールの取り組みを通して～

2 指導の立場

○ 全体的に明るく伸び伸びとした雰囲気であり、多くの生徒が学級活動や学校行事に意欲的に取り組んでいる。2 学期のはじめに行われた体育祭でも、全校のリーダーとして活躍し感動的なものを創りあげることができた。毎日の短学活では、一日の反省の中で良いところを出し合ったり、逆に努力が必要なところを指摘し合ったりするなど認め合い高め合うことができています。

3 年生の多くが、深刻ないじめや集団としてのまとまりを得られなかった時期を経験してきている。そのことが、「今の雰囲気を大切にしたい」「正義が通る集団でありたい」という思いにつながり、互いに批評し合える集団に成長した一因と思われる。

昨年度、転入してきた A さんは、厳しい背景を抱えており、自分に自信が持てない、自分を大切にできないところが見受けられる生徒である。その結果、投げやりな発言や自暴自棄な行動が多く見られる。また、学習や集団としての活動から逃避する傾向もある。しかし、A さんに本気がかかわろうとする生徒も多く、そんな仲間の態度に接し、少しずつではあるが心を拓く姿も見られるようになってきている。

○ よりよい合唱を行うためには、一人ひとりが自分のパートをしっかりと歌いこなすだけではなく、仲間と気持ちを合わせ、声を合わせていくことが必要となる。本教材は、目標に向け練習や話し合いを行わせる中で、「心を拓くこと」「仲間と力を合わせて取り組むこと」の大切さを再認識させると同時に、その喜びを実感させ、クラスのまとまりや団結力を深めることができるものである。

さらに、本校では、取り組み期間中に他のクラスの練習を見合う、全校で交流会を持つなどの活動を行っている。この活動を通して、クラスや学年を超えて認め合ったり、良い刺激を受け合ったりしながら、互いを高め合うことができることも本教材の大きな魅力の一つである。

また、本時に扱う作文は、1 年前に転入して来た 2 年生の B さんが、森中の様子を見た感想が率直に表現されている。3 年生にとって、身近な後輩の生の声は、何よりも心に響きかつ心を揺さぶることができるものである。

○ 指導にあたっては、人権が尊重される授業づくりの視点として「自己存在感をもたせる」「共感的人間関係を育成する」「自己選択決定の場を工夫し設定する」という 3 点を大切にしたい。そのために、作文から森中生徒の良さを具体的に読みとらせることで、自分たちの取り組みが後輩に素晴らしい影響を与えていることを実感させたい。そして、効力感を高め合唱へのさらなる意欲と後輩へメッセージを伝えようという気持ちを喚起させたい。

また、リーダーに対しては、自信を持って練習を進められるように活動の意義や進め方を理解させておくと同時に、練習の終わりに肯定的な評価ができるようしっかりと観察するように指導していきたい。

まわりの友だちからの声かけにより指揮者に立候補した A さんに対しては、音楽担当の教員と連携し自信を持って指揮できるよう支援していきたい。そして、成就感や仲間との一体感を味わわせ本人の自信につなげていきたい。

3 指導目標

- (1) よりよい合唱をめざし、クラスの仲間と力を合わせて取り組むことができる。
- (2) 全校のリーダーとしての自覚を持ち、学級や学年を超えて互いに高め合うことができる。

4 指導計画

第 1 次	合唱コンクールに向けて (組織づくり・スローガン決め)	(1 時間)
	合唱練習 (日々の 取り組み)	放課後
第 2 次	互いに学び合おう (学級交流会)	(2 時間)
第 3 次	後輩に伝えたい姿を考えよう	(1 時間)・・・本時
第 4 次	クラスで高め合おう (リハーサル)	(2 時間)
第 5 次	合唱コンクール	行事
第 6 次	合唱コンクールを振り返ろう	(1 時間)

5 本時案

- (1) 題目 後輩たちに伝えたい姿を考えよう
- (2) ねらい 自分たちの姿が後輩に与えてきた影響を再確認することによって、後輩にメッセージを伝えようとする 意識を持ち、合唱コンクールで自分たちのあるべき姿を考えることができる。

(3) 展開

	学習活動	指導・支援及び留意点	配時	備考
つかむ (体験)	1 3年生のどんな良さが、後輩から支持されてきたのか考えることで本時の目標をつかむ。 (1)写真と後輩の言葉から体育祭を振り返る。 (2)発表する。 (3)本時の目標をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭の写真を用いて、自分たちが頑張った時の様子を思い出させる。 ・「こんな3年生になりたい」という感想が多くあったことを知らせる。 ・何人かの生徒に発表させる。 	8	(全体)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 目標： 後輩たちに伝えたい姿を考えよう </div>			・板書
さぐる (話し合い・反省)	2 Bさんの作文をもとにして森中生徒の良いところを考える。		27	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Bさんが「人生で初めて学校が楽しい」と思えるようになったのは、森中生徒のどんな姿に接したからでしょうか。 </div>			
	(1)作文の朗読を聞く。 (2)自分の考えをまとめる。 (3)班で意見を交流する。 (4)クラスで意見を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年前に転校してきたBさんの作文には、森中学校の良さが率直に表現されていることを知らせる。 ・思いが伝わるように教員が朗読する。 ・机間指導。書けない生徒を支援する。 ・作文から抜き出してもよいし、自分自身の考えでもよい事を伝える。 ・班会議のルールを意識させる。 ・板書をしながらまとめる。 		・作文 ・学習プリント (個人)
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <予想される反応> <ul style="list-style-type: none"> ・行事を楽しんでやれる。 ・男女関係なく、みんなで取り組める。 ・仲間と一緒に何かを創り上げようとする。 ・一人も見捨てず、一人も欠けないように取り組もうとする。 ・いいところを褒め合える。 ・互いにみとめ合える。 </div>			(班) (全体)
ふかめる (一般化)	3 合唱コンクールで伝えたい自分たちの姿を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・森中生徒の良さは3年生の姿そのものであり、自分たちの良さが後輩たちに伝わっていることに気づかせる。 	10	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 合唱コンクールで後輩たちに伝えたい姿を考えよう </div>			
	(1)自分の考えをまとめる。 (2)思いを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・後輩たちに一番伝えたい自分たちの姿(良さ)を考えさせる。 		(個) (全体)
まぐる (適増)	4 担任の思いを聴き、さらなる意欲につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子や発表内容について肯定的評価を行う。 ・本時の学習を次の意欲に繋げさせる。 	5	

授業で使用した作文 (本校2年生作品)

【みんなで創るいじめのない学校】

二年前、私はA市にある中学校に入学しました。その学校は大きな学校で、知らない人がたくさんいました。私は一年一組になりました。入学式の日、教室に入ったら、もう既に仲良しグループがいくつもありました。それを見て、私は「やばいなあ。」と思いました。なぜかという、私は自分から話かけるのがすごく苦手でなかなか人と話せないからです。結局、その日は一人で行動しました。次の日も、その次の日も

ずっと一人で過ごす毎日でした。一学期の終わり頃、そのクラスでは暗い影がありました。その暗い影はいじめです。そして、そのいじめのターゲットがこの私になりました。いじめられる前は普通の日でした。次の日、「お前さ、すごいぶきみで気持ち悪いよ」という言葉を耳にしました。正直、すごくいやでした。それからずっと、頻繁に悪口を言われるようになりました。だから、私は教室にいるのが苦痛になりいつも保健室にいました。

二学期になって私は、玖珠の森中学校に転校してきました。最初、前の学校と同じことになるかもしれないという恐怖でいっぱいでした。でも、実際は全然違いました。みんなすごくやさしくて恐怖は少なくなりました。しかし、前はある日突然にいじめが始まったから完全に恐怖がなくなったわけではありません。いつまた、あんなふうになるかとこわかったです。しかし、森中にはいじめは存在しませんでした。それは、生徒会を中心にみんなでいじめをなくす取り組みをしているからです。クラスマッチ、歓迎遠足など全校の行事は、学年関係なく楽しんでいきます。部活動でも先輩、後輩という区別はあるもののみんな仲良く活動しています。こんなにも全生徒が仲のいい学校、森中に転校してきて本当に良かったと思います。今まで、5回転校したけど、どの学校も楽しいと思ったことはありません。だから**人生で初めて学校が楽しい**と思っています。

二学期は、様々な行事があります。体育祭、修学旅行、合唱コンクール。これらの行事はみんなが力を合わせるので、体育祭は学校全体の、修学旅行は2年生の、そして合唱コンクールは学級の団結が深まります。私は、体育祭や合唱コンクールを通して、仲間にとって大切なことを学んできました。その大切なこととは、一人でもかけたら今まで積み重ねてきたものがくずれてしまうということです。またこんな行事を通して、ふだん見ない精一杯がんばっているみんなの姿が見られるということです。さらに、体育祭や合唱コンクールの練習のとき、できることが増えてきます。そのできたことやみんなからほめてもらったことがすごくうれしかったです。本番のとき、みんなが「楽しくやろう」と言ってくれて、笑って体育祭をむかえたり笑顔で歌ったりしてすごく楽しかったです。

森中にいじめがないのは、行事などを通して男女関係なく楽しくやっているし、みんな仲間を見捨てないで声をかけたり、認め合ったりしてるからだだと思います。テレビでよく耳にするいじめによる自殺。この自殺は、いじめた人だけの責任じゃなく全生徒に責任があると思います。いじめていた人だけが悪いのじゃなく、いじめを許してしまうみんなも悪いと思います。森中に来て私はそう実感しました。学校全体でいじめをなくす取り組み、「みんなで楽しみながら何かを創りあげる」「お互いのいいところを認め合う」こんな取り組みは絶対に必要だと思います。

4. 実践事例の実績、実施による効果

私たちは、「自分の人権を大切に、他の人の人権も同じように大切にする、人権を弁護したり、自分とちがう考えや行動様式に対しても寛容であったり、それを尊重する」ことを目指し、「思いを伝え合える、表現豊かな森中っ子」を念頭におき、研究を進めてきた。

常に人権の視点を根底においた教科指導・仲間づくりを両輪とし、子供が授業の主体者となり得る共同的な学びを大切にしてきた。特に授業においては、ペア学習・班学習をすべての授業に取り入れ実践を進めてきた。また仲間づくりにおいては、共感的人間関係の構築に力点をおいた。

その結果、多くの生徒が「授業に参加している」「自分が必要とされている」「自分が受け入れられている」「共に学び合う仲間がいる」という自己存在感を持たせることができたと確認している。また、私たちが積み重ねてきたものは、人権教育の指導方法の基本原則として挙げられている、「参加」、「協力」、「体験」と重なるものであると認識している。ことに「体験」の部分において、体験的参加型学習の手法をより意識し、研究に取り組んできた。

特に、「生徒の作文から後輩に伝えたい姿を考え、合唱を創りあげようとする態度につなげる実践」「仲間がつづった文章を教材として、全員の文法学習の定着を追求した実践」「ビデオ視聴を通して差別の本質に気づき、自分たちの問題ととらえ行動化する姿を求めた実践」（公開の授業を通しての実践）を通して、私たちは生徒が自分で「感じ・考え・行動する」つまり、生徒自身が「心と頭脳と体を使って、主体的・実践的に学習や集団づくりに取り組むことが、大切である」ことが検証できたのではないかと自負している。

5. 実践事例についての評価

「学級活動授業実践」研究授業参加者評価

- 子供たちののびのびとした姿がとてもすてきでした。合唱でもその姿が出ていて、のびのびとした歌声が、とても良かったです。子供たちの一人一人の意見に、しっかりと心が表れていました。
- 写真を見ながらのアットホームな雰囲気、自らの考えを書く場面での静寂と鉛筆の音。授業に対する子供たちの姿勢のすばらしさに感心しました。合唱の姿に表れる表現力と、それができるクラスの様子は、すべての指導の姿のあらわれと思いました。感動しました。
- 日頃の生徒同士のつながりや先生との信頼関係などすばらしい姿が見られ、とてもすばらしい活動だったと思います。とても素敵な学級だと思いました。
- 子供たちから出ていた言葉が全てを物語っていると思いました。どの子も、森中・自分たちの良さを語れているという姿を見て、うれしく思いました。「一生懸命やることはカッコいい」この姿を是非後輩に伝え、残してほしいです。
- 元気で素直な生徒たちを育ててきた御苦労もあったかと思いますが、とてもすばらしい授業と合唱練習でした。
- とにかく子供たちの生の姿がよかった。後輩に何を残せばいいのか、何を残したいか・・・明確になっていたと思います。最後に合唱コン楽しみです。
- あたたかい雰囲気のクラスだった。今日の授業もそうだが、これまでの学級経営の積み重ねによるところが大きいと思う。見習うものがたくさんあった授業でした。

○元気の良さと、班のチームワークの良さに驚きました。授業を真剣に受け、一生懸命さを感じました。本日の授業の目当ての到達すべき姿なのではないかと思いました。素直に思いを伝え合い、班で助け合い、まさに研究主題そのものです。



(合唱コンクールのフィナーレ 全校合唱)

「研究の全体構想について」研究会参加者評価

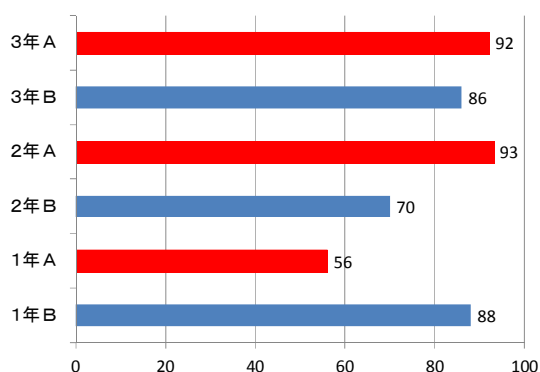
- 学校全体の取り組み、教科、仲間、人権授業等のすべての取り組みが一つになると、こうなるのかと思いました。私も、こんなつながりのある学校の子供たちを育ててみたいです。
- 全教職員で一つになって計画的に取り組んでいる様子が、とても参考になりました。
- やはり人は人で育ちますね。押しえつけではない、人と人とのつながりの中で、子供たち（学校）は変わるのですね。
- 異学年のリーダー会議とてもいいと思いました。小学校でも可能な範囲で活用できればと思います。
- 「効力感」がよくわかりました。
- 人権の学習と教科の視点をよくリンクさせていて、授業形態、内容もよく考えられていると思いました。
- 多くの先生が「自分ができるんだ」「人の役に立てるんだ」と感じられるとともに、職員も「効力感」を感じられるような学校全体の雰囲気があり「いたいな」と思える学校づくりをされている研究はすばらしいと思いました。
- 「人権の視点を根底においた集団づくり」大変重要なことだと感じています。それを全教職員が全領域の中で実践していることに敬服しています。
- 自己肯定感（やればできる・必要とされている）を育む取り組みが、授業の中でも特活でも落ち着いて前向きに頑張っている子供たちの姿につながっていると感じました。
- 体験的参加型学習を実践し、自分と他者は違い、それを認め合っているという姿が見られました。

【現在、実施に当たって課題と感じていること】

本取り組みを行う中で、学習意欲の向上に確かな手応えを感じるが、「学力をすべての子供に保障する」という観点から見れば、十分であるとは言えない。特に、お互いに高め合って得た知識や技能を活用していく力をどうつけていくのか、具体的な実践が待たれるところである。

本年度、本校では数学において、本校独自のスタイルで、習熟度別少人数指導に取り組み始めた。もちろん、人権の視点を根底においた取り組みの活動の一つである。教員の支援が必要な少人数のAグループとお互いに学び合い高め合いが期待できるBグループとに分ける。更にAグループは二つに分け、できるだけ一人一人のつまずきに対応しながら、「できる」喜びを味わわせる授業を展開する。学び合いが日常化している本校では、この少人数学級においても、私たちが予期した以上に学び合いが組織されている。今まで教えられることばかりであった生徒が、「人に教えることができた」という喜びを感じているのである。事実、アンケート結果から見ても、特に2・3年生で、その傾向が伺える。

授業が楽しい



今後も、私たちは人権の視点を根底におき、生徒が効力感を実感しながら、互いの思いを伝え合う森中っ子集団を目指して研究を深めていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

玖珠町立森中学校

学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例である。

「深刻ないじめや集団としてのまとまりを得られなかった時期」を経験して、自他の人権を大切にすること、多様性に寛容であること等の生徒像を明確にして、学校・家庭・地域が一体となってコミュニティスクールを推進している。特に、学校を「魅力ある、行きたくなる学校」にするために、参加・協力・体験的な授業づくりを工夫したり、感じ・考え・行動するという学習プロセスを大切にした学習活動や人間関係づくりを進めたりすることによって生徒の充実感・効力感、自尊感情が醸成されている点は参考になる。開かれた学校づくりの工夫、生徒会活動を通じたリーダーの育成、学校教育目標と人権教育の目標を達成するための研究推進体制等、効果的な具体事例が示されており参考になる。